



ともに築こうまち・みらい

# 那珂川だより

第1号

那珂川緊急治水対策プロジェクト

編集・発行  
国土交通省 常陸河川国道事務所

令和元年東日本台風により、那珂川水系では甚大な被害を受けました。これをうけて、国、県、市町が連携し、以下の2大柱の治水対策により社会経済被害の最小化を目指す那珂川緊急治水対策プロジェクトを始動しています。今回、創刊した「那珂川だより」では、プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況を那珂川流域にお住まいの方々にお知らせしていきます。

## ① 多重防御治水の推進

三位一体の対策

河道の流下能力の向上（土砂掘削、樹木伐採による水位低減、堤防整備等）  
遊水・貯留機能の確保・向上（遊水地・霞堤の整備、保全・有効活用等）  
土地利用・住まい方の工夫（土地利用制限、家屋移転等）

## ② 減災に向けた更なる取組の推進

関係機関等が連携した、円滑な水防・避難行動のための体制等の充実

- ・重要度に応じた情報の伝達方法の選択及び防災情報の共有化のための取組
- ・関係機関が連携した水害に対する事前準備のための取組

### 那珂川緊急治水対策プロジェクト プロジェクトマップ

#### ① 多重防御治水の推進 3. 土地利用・住まい方の工夫



#### ③ 土地利用・住まい方の工夫 (土地利用制限、家屋移転等)



#### ① 多重防御治水の推進 2. 遊水・貯留機能の確保・向上

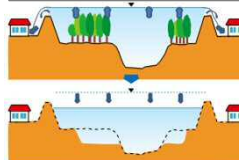


#### ① 多重防御治水の推進

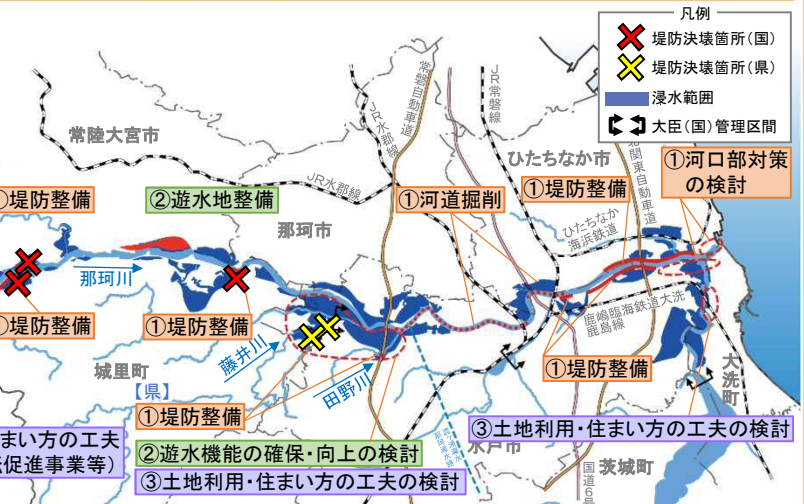
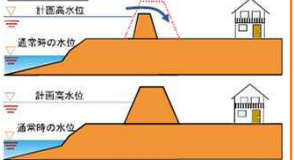
##### 1. 河道の流下能力の向上

河道内の土砂掘削、樹木伐採により水位低減を図るとともに、掘削土を活用して堤防整備することで、洪水が円滑に流れやすい河道整備を推進します。

#### 河道内の土砂掘削・樹木伐採



#### 堤防整備



#### ② 減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

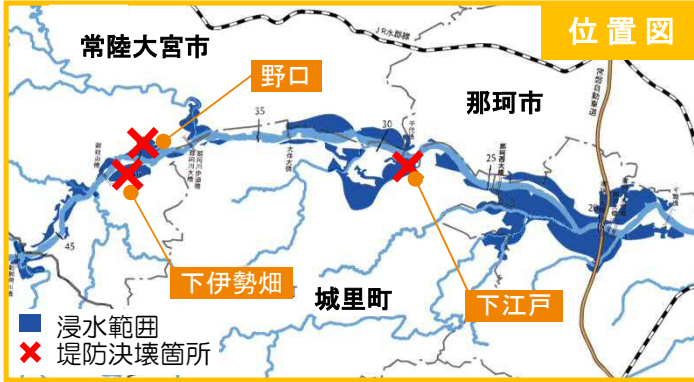




# プロジェクトの取組（河川対策）

## 堤防決壊箇所の本復旧工事

- 令和元年東日本台風により、決壊した堤防の本復旧工事を進めています。
- 全ての決壊箇所において、従前の被災前と同じ高さの堤防を復旧しており、引き続き補強対策を進めていきます。



位置図

### 那珂市下江戸地区（那珂川 右岸 28.6k付近）

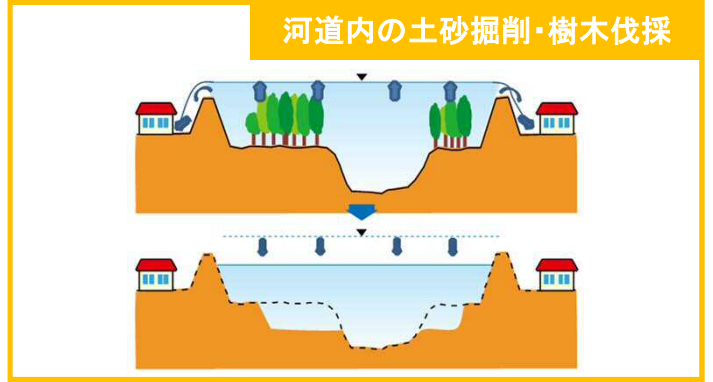


### 野口地区（那珂川 左岸 40.0k付近）



## 河道掘削、樹木伐採工事

- 川の水位を下げるために、これまで河道掘削や樹木伐採の工事を進めています。
- 本プロジェクトにおいても、引き続き河道掘削、樹木伐採を進めて行きます。



河道内の土砂掘削・樹木伐採

### ひたちなか市枝川地区（那珂川左岸11.0k付近）



### 水戸市渡里地区（那珂川右岸17.0k付近）



## 地域のみなさまへ プロジェクトの概要説明を開始しました

### プロジェクトの概要説明を行いました

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月以降、地元説明会等の開催を自粛してまいりましたが、緊急事態宣言の解除を受け、那珂川中下流部の常陸大宮市、ひたちなか市などにおいて、地元区長へのプロジェクトの概要、今後の進め方等について、説明を行いました。
- 説明は三密を避けるため、地区毎に分散して開催し、マスクの着用等の対策を行いました。
- ご参加頂いた区長のみなさま、市町の担当者に感謝申し上げます。



### 久慈川・那珂川流域における減災対策協議会が開催されました

- 令和2年5月28日にウェブ会議で協議会が開催され、冒頭で、新たに大子町長、茨城県常陸大宮土木事務所大子工務所長、久慈川緊急治水対策河川事務所長を構成員とすることが承認されました。
- その後の、主な議事としては、「久慈川緊急治水対策プロジェクト」「那珂川緊急治水対策プロジェクト」における取組項目を加えた令和2年度の取組内容について、報告し、了承されました。
- 会議資料は、常陸河川国道事務所のウェブサイトに掲載されています。

### プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです



国土交通省 関東地方整備局  
常陸河川国道事務所 調査第一課  
TEL:029-240-4069



〒310-0851  
茨城県水戸市千波町1962-2

常陸河川国道事務所

検索



# 越水・決壊センサーの開発・整備

- 堤防に高密度に設置したセンサーの情報から、越水や決壊箇所を迅速に検知
- センサーからの電波状況や加速度情報をサーバで解析し、越水・決壊を判定
- センサーは内蔵電池で動作、運用や通信方式の工夫で5年以上\*の稼働を目標(\*条件による)
- R2年7月以降に実証試験を実施、R3年出水期より被災河川での整備・運用を目指す

